

新型コロナウイルス感染症に関する川崎市からのお願い

令和2年4月9日撮影

川崎市長 福田 紀彦

みなさん、こんにちは。川崎市長の福田紀彦です。

みなさん、新型コロナウイルスのことで、さまざま不自由をおかけしていると思いますが、自粛はじめ、外出を抑制していただいたり、様々なご協力をいただいておりますことに、まず心から感謝を申し上げたいと思っております。

本日、4月9日ですけれども、現在で市内の感染者数は85名ということになっています。1週間前の4月2日が39名でしたので、約2倍になっている、この2日間は感染者数が2桁になっているということでありまして、より私たち緊張感を持って、そして今後備えていかなければならないと思っております。

そこで、今日は、映像でもってみなさまにお伝えしたいことということをご案内させていただきます。私のほかに、川崎市健康安全研究所の岡部所長、国の専門家委員会の委員も務めていただいております。そして、川崎市医師会の岡野会長にもご同席をいただいております。お二人には医学的見地からのご発言をいただきたいと思っております。

それではまず私から、緊急事態宣言下における川崎市の行政サービスがどうなるのかということをご説明させていただきます。

○緊急事態宣言期間の川崎市の状況

それでは、川崎市の行政サービスがこれからどうなっていくのか、ということについてご説明させていただきます。3つのカテゴリーに分けてあります。1つはこれまで通りしっかり実施するもの、それからもう1つは中止・閉鎖・延期をするもの、そして縮小して実施するものと分けてあります。

まず、各種の窓口業務でありますとか、あるいは水道、ごみの収集、市営バス、もちろん医療の市立病院などというものは、これまで通りしっかりと実施させていただきます。

また、中止・延期・閉鎖というものでありますけれども、こちらのフリップに書いてあるとおり、こども文化センター、老人いこいの家でありますとか、あるいは市民館、会議室の提供、ホールの提供、こういったものはすべて中止か閉鎖という形にさせていただきますので、どうかご理解いただきたいと思います。スポーツセンター、屋外のスポーツ施設も含まれますので、ぜひご協力のほどお願いします。

縮小して実施するものの1つとして、保育園がありますけれども、原則として開所いたしませんけれども、この期間、テレワーク等で在宅で子どもさまを見られるという方に関しましては、ぜひ登園そのものを自粛していただきたいと思います。自粛していただいた方は、保育料につきましては今日からさかのぼって4月8日から5月6日まで日割り計算で利用料金ということにさせていただきますので、どうかご協力をお願いしたいと思います。

それからわくわくプラザについても、同様に社会機能を維持していくために、必要な方に限って、わくわくプラザをご利用いただきたいと思います。なるべくであれば、控えていただきたいと思いますというお願いでございます。

それから家庭での生活が非常に多いことから、かなりストレスが皆さん溜まっておられると思います。ぜひ子育ての悩みですとか、あるいは虐待につながりそうだ、というご心

配がある方はぜひ一人で悩まずにご相談いただくように連絡先をホームページでしっかり記載させていただいておりますので、ぜひご相談していただきたいと思います。

○「神奈川モデル」とリンクした「川崎市内発生患者」の調整

それでは、今から川崎市の医療提供体制のフローがどうなっているか、ということをご説明させていただきたいと思っております。

まず、感染の疑いのある方が、帰国者・接触者相談センターというところに連絡をしていただいて、そこからの紹介で接触者外来に受診していただく、そこでPCR検査を受けて陽性反応が出た場合には、3つのカテゴリーに分けております。それは、重症、中等症、軽症あるいは無症状という3つのカテゴリーに分けて、その病態に応じて受入先となる医療機関を確保して、拡充に努めているところです。それぞれの段階で拡充していかなければいけないということで、今、市内8つの医療機関で陽性患者さんを診ていただいておりますけれども、そのベッド数を今後さらに拡充していく、そして検査体制も拡充していくと、同時並行的にやらせていただいております。そして、無症状、あるいは軽症の方は、なるべく重症の方、中等症の方にベッドを確保していく意味においても、自宅待機、あるいは、今後、ホテルですとかそういった宿泊場所を、現在、県とも一緒に確保に向けて調整を図っているところです。また、ベッドの拡充に当たっても、私たち川崎市の独自の支援策を病院に行き、なるべく病床を確保できるような体制を、現在、取り組んでいるところです。現在はですね、病床はなんとか持ちこたえているところではありますが、今後のさらなる発生に備えて拡充に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

それから皆さまにお願いしたいのは、帰国者・接触者相談センター、いわゆる保健所に自分は感染しているんじゃないか、あるいは一般的なコロナウイルスに対する問合せというのかなり殺到していて、本来の業務が支障をきたしているということもございまして。ぜひ、適切な方に適切な対応をしていただくためにも、一般的なご相談というものはぜひコールセンターなどに連絡していただいて、適切な行動をとっていただきたいと思いますということを合わせてお願いしたいと思います。

皆さまにおかれましては、大変、不自由、ご不便をおかけしますが、ぜひ3つの「密」を避けていただく行動をより強化していただいて、市内での感染の拡大というものを、ぜひとも皆さまのご協力で防いでいきたいと思っておりますので、どうかご協力のほど、よろしくお願いたします。

川崎市医師会 会長 岡野 敏明

日々刻々と変わるこの状況の中で、川崎市医師会として何ができるか、これを我々も行政と一緒に模索しているところでございます。なにより、通常の感染症、通常の体調不良の方々に対しても、安心して医療を受けていただくために、発熱や呼吸器症状をお持ちの患者さんのPCR検査、こういったものがより円滑に、そして適正に実施できるように、休日診療所を活用した外来患者さんの診療の拡充などを計画しております。

さらに、診療所における経験とマンパワーを活用して、病院における外来等に支援をしていければ、と考えている次第でございます。

川崎市健康安全研究所 所長 岡部 信彦

川崎市健康安全研究所の岡部です。

一番最初に中国から発生したこの新型コロナウイルス感染症ですけれども、日本はずっとくすぶっているような状態であったところ、ヨーロッパ、あるいはアメリカでも爆発的な流行が起きて、その影響をだいぶ受け始めているところと言うことができると思います。日本の状況は今申し上げましたように、しばらくくすぶり状態が続いていたわけですけれども、やはり首都圏を中心にして患者さんが増加しているというような現在になっています。ただ、川崎市ということ言えば、患者さんは確かに少し以前より増え始めているんですけれども、どこかで爆発的な流行が起きているとか、集団的な発生が起きている、あるいは全く原因のわからない人ばかりというような状況ではまだありません。しかし、その兆しのようなものは見えていますし、これに対しては今までも十分注意をいただいたんですけれども、それだけではこれから先の増えるというのを抑えることはなかなか難しいのではないかと、というような状況なので、さらにいろいろな点でのご注意をお願いしたいということになります。

患者さんが増えたとはいえ、この病気は基本的には8割がたの方は軽く済んでいます。入院された方でも退院される方が多くいらっしゃいます。しかし、やはり患者さんが、全体の感染者が増えてくると、少ない割合であってもやはり重症の方、中には残念ながら治療及ばず亡くなられる方も出てくるので、そうであると全体の患者さんの数をなんとか減らしたいというのが1つ、それからもし重症の患者さんが増えてきてしまうのであれば、やはりその方は適切な治療をできるだけきちんとやらなくてははいけない。そのためには、感染はしているけれども比較的样子が落ち着いている方などは、例えばICUがあるようなところではない病院に行っていただく。それが先ほど福田市長、あるいは医師会長の岡野先生からご説明があったように、今までの医療とは違った形でやって、できるだけ軽い方は様子を見ていただく、悪い方は治療をしていただく、また、その方に対する検査を速やかにやっていくというようなことが必要になります。

ただ、感染症というのはやはり人から人にうつるという特徴がある病気なので、そのためには非常に古くさいようなやり方になるのですけれども、人と人が離れている、あまり近い距離で一緒にいない、それが3つの「密」とこの頃よく言われますけれども、あまり近い距離にいろいろな人が長い時間一緒にいないで、あまり大きな声でしゃべったり、飲んだり、大声を出したりというようなことを控えていただくということが、必要なことになります。そういうためには、できるだけ外出を避けていただく、あるいはやらなくてはいけない仕事は多々あると思うのですけれども、できるだけ在宅でできるものは在宅でやったり、あるいは時差出勤とかですね、そういうような具合で、場合によっては、出張のようなことは電話会議などの工夫をしていただいて、できるだけ人と人との間隔を離すというようなことをしていただくと、スッと増えるのが抑えられる可能性がある。それが今の外出の自粛その他のお願いであります。

緊急事態宣言というとびっくりするようなことに聞こえるのではないかと思いますけれども、テレビその他報道で見ると外国で行っているようなロックダウンというようなことでは決してないわけです。これはたしかにロックダウンをした方が患者さんの発生を抑えることができるということはあるんですけれども、人々の不便な部分をできるだけ最低にすると、あるいはこれは医学的なことではないですけれども、経済的なダメージはできるだけ最小にしようというようなところから現れているわけですが、それはやはり一人ひとりの方にどうしても協力をしていただかなくてははいけない、というのがあります。市民の方々に大変なご迷惑、あるいは我慢を強いてしまうことにはなるんですけれ

ども、私たちもできるだけ正しい情報は早くお伝えして、私の研究所では検査をやるわけですけれども、その他の民間の検査所を使った検査の方法とか、あるいは医療関係のほうは病院の先生方、あるいは医師会の先生方にいろいろな工夫をしていただいて、少しでも早く、この様子が上回らないようにという努力をやりたい、やっていかなければならないと思います。ぜひ市民の方々のご協力をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。